
由夜

葉仙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

由夜

【Nコード】

N80220

【作者名】

葉仙

【あらすじ】

笹野由夜17歳。彼女は7歳のときに、唯一の家族といってもいい兄を失った。何者かに殺されて。10年の時を孤独に過ごしてきた由夜。変わらないはずだった日常は、ある日突然変わる。彼女は、異世界へ飛ばされてしまう。狂いかけた少女の、再生の物語。

1 序章

パアン、と銃声が暗闇に木霊する。

それとともに舞う、赤。

艶やかな、少女の歪んだ笑み。

そして、

「ツキヤハハハハハハハハハッ！！！！」

狂った、笑いだった。

過去は戻らない。

いくら願っても、絶対。

でも、もし。もしも。

過去へ、戻れるとしたら？

決まってしまった、起こってしまった現実を捻じ曲げ、狂わせられ
たら？

私は、実行する。

たとえその結果が

私の身を、滅ぼす結果となっても。

私は、取り戻す。

私の…大事な大事な、宝物を。

2 きっかけ

いつも通り学校が終了し、帰ろうとしていた時だった。数人のクラスメイトの女子が、由夜に話しかけてきた。

「ねえ笹野さん。あんた吉田君と付き合ってるってホント？」

「…はあ？」

予期せぬ質問に、由夜は思いつ切り不快感を露にする。

まずヨシダって誰だ。

そんな由夜の反応に、苛立ちを抱いたのかクラスメイトは語気を強めた。

「はあ？ じゃないわよっ… アタシが吉田君に告白したらねえ、『俺今笹野と付き合ってるから』って断られたの！ でもおかしいじゃない？ アタシ半年以上あんたと吉田君と同じクラスだけど、吉田君と話してる姿全然見たことないもの！」

「それはそうだろうね。私はあんたのことは知ってるけど、吉田って男子は知らないから」

「でしょっ！？…え？」

クラスメイトの女子が絶句する。

し、信じられない。と表情が物語っている。

だが由夜はカッコイイ男子生徒、もつと言えばクラスメイトなど微塵も興味がない。…ので、知らないのも当然だった。

このクラスメイトは、流石に体育等で一緒だから知っているが（顔と名前だけ）。

何も言えずに口をパクパクさせている彼女達を一瞥し、言葉が続ける。

「私は知らないし、付き合ってもいない。勝手にでっち上げられたのだとしたら、大変遺憾だ。

それに私はあんたの方が愛嬌があつて良いと思う。私は性格も悪いし。そう言つておいてくれるとありがたいかな。それでも聞かなかったらその時はその時で」

つらつらと意見を述べ、そしてさりげなく相手を褒める。

この世の中で平凡に生きていく為には、こういう事も必要なのだ。

17歳の女子高校生らしからぬ考えだが、正論だ。

案の定、クラスメイトは気を良くした様だ。

「そ、そうよね！あはは、きつと吉田君の妄想よね。アタシちゃんともう一回話ししに行つてみるわ！

ありがと笹野さん、良い人ね！じゃっ！」

そして見守つていた取り巻きの女子生徒と一緒に走り去っていく。なんて単純な…と思つたが口に出さず、その場を後にする。

こうしていつもとちょっと違う日常は、何とということなく過ぎていくはずだった。

…はずだったのだ。

もうすぐ家に着くと言ったときだった。

ぐらり、と激しいめまいに襲われた。

「ッ、なっ…!？」

今までにない症状。

少なからず混乱してしまう。

（何だ…!？）

そして。

由夜の世界は、白に包まれた。

「…おい」

誰かの声が聞こえる。

低く、耳に心地よい声だ。

聞いたことは無いが、安心できる。

また意識を沈ませようとすると、声が降ってくる。

「目を開ける、おい！」

「…ッるさいな…！」

眠りを妨げられることに苛立ちを覚え、瞼を開ける。

そこに広がる、景色は。

美しく澄んだ、蒼い空。

瑞々しい、花々。木々。

レンガ造りの家。

そして、大きな塔
。

「何だ…ここ、は」

まったく知らない土地。

まったく違う髪色の青年。

何でこんなことになった!?

由夜が混乱し、黙って景色を見つめていると、また声が降ってきた。

「大丈夫か？ここはミゼアの草原だ。お前はここで真っ青な顔で倒れてたんだ。

…覚えてるか」

「…いや…」

異世界。

今理解できるのは、それだけだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8022o/>

由夜

2010年11月9日03時00分発行